

4 校内研究・研修

(1) 研究主題

教科等	研究主題
算数科	自ら考え学ぶ子どもの育成 ～ 一人ひとりが自分の考えをもち、深められる指導の工夫 ～

(2) 主題設定理由

平成26年度は、研究教科を国語科、算数科、理科の3つにして、「自ら考え学ぶ子どもの育成～自分の考えをもち伝え合う、指導法の工夫～」をテーマに研究を進めてきた。

全体授業研究会は、どの学年も1本行い、さらには、事前授業や事後授業を学年で協力して取り組むことにより校内研究の活性化を図ることができた。「書く意欲」を持たせるために、自分の考えをしっかりと書く時間をとり、ペアやグループに伝えていき、全体の場合への発表につなげていった。自分の考えを書くことに抵抗を感じていた子ども、友だちの発言を聞いて書くことができるようになり、言葉にこだわる姿が見られた。一人で考える時間をしっかりと確保したことが、自信を持って友だちに伝えることにつながり、友だちに認めてもらえるうれしさが全体の場合への発表意欲にもつながった。伝え合う活動では、友だちの意見と自分の意見を比べて自分の立場を明確にして話し合うことで、考えを深めていくことができた。

しかし、子どもたちが意欲的に主体的に取り組む学習を目指してはいるが、まだ、その取り組みは限られている。「話したくなる・聞きたくなる」場づくりをこれからも意識して取り組むことが伝え合う力をつけていくことになり、一人ひとりの考えを深めることになる。特に算数科においては、計算する力はある程度ついてきているが、答えを導く過程を分かりやすく説明し、伝えていく力に弱さが見られる。

本年度は、昨年度の成果と児童の実態を考え合わせた上で、研究教科を「算数科」に絞り研究を進めていくことにした。事実等を正確に理解した後、それを自分の知識や経験と結びつけて解釈することによって、自分の考えをもち、友だちに伝え合うことによって、自分の考えをさらに深めていくことで、自ら考え学ぶ子どもの育成をめざしていきたい。

(3) 研究内容と方法

◇算数的活動の工夫

算数的活動には、作業的・体験的な活動など身体を使ったり具体物を用いたりする活動とともに、算数に関する課題について考えたり、算数の知識をもとに発展的・応用的に考えたりする活動や、考えたことなどを表現したり説明したりする活動も含まれる。これらの活動を通して児童一人ひとりに筋道を立てて考える力を育てるための指導過程や指導方法を工夫することが大切になる。

① 課題設定や題材設定の工夫

親しみやすい身近な生活場面や児童にインパクトを与える題材などを設定することで児童一人ひとりに「おもしろそうだな」「やってみたいな」「どんな答えになるのかな」「他にどんな解き方があるのかな」「次の課題は何だろう」といった思いや願いをもてるようにすることが大切である。このことが単元を通して、児童に意欲をもって主体的に学習に取り組ませていく、有効な手立てとなるだろう。

② 作業的・体験的な活動の工夫

具体物を用いて数量や図形についての意味を理解したり問題解決の方法を考え説明したりする活動、日常の事象を結びつけ身体を使って体感する活動などを工夫する。そうすることにより、児童一人ひとりの思考の過程を明確にするとともに、具体的に認識することができる。

③ 活用を意識したノート指導

学習の流れや要点が分かりやすいノートづくりに心がける。自分の考えの筋道がよく分かり、学習の流れが明確につかめ、最後に自分でまとめを書くことにより学習内容が理解できる。ノ

ートは、自分の考えを練る場であり、自分の考えを言葉で表すことは、思考力や表現力などを高めていく上で大切である。

④ 学び合い活動（ペア・グループ）の工夫

いくつかの考えをグループや学級集団全体の中で出し合い、それぞれの考えの共通点や相違点などを比較検討したり、その考えの良さに気づかせたりすることは重要なことである。また、児童の実態に応じて話し合う人数を調整することで、全体の場では話しぶらい児童が安心して話すことができる。

◇評価と指導の工夫

学習は目標の実現や課題の解決に向けて行われるものであり、その過程や結果において何がどのように身についているかを評価していくことは、大切な事である。評価することにより、教師は児童一人ひとりの学習状況を把握して、それを次への指導に生かすことができる。また、児童自身も自己評価することで、自分の学習課題や目標がどの程度達成できているかを振り返ったり見つめ直したりすることができる。

① 学習の振り返り（自己評価カード）

児童一人ひとりの学力を図り、学習意欲を持続させていくためには、毎時間ごとの自分の学び（できたことや分かったこと、思ったことや考えたことなど）を振り返らせることは大切である。

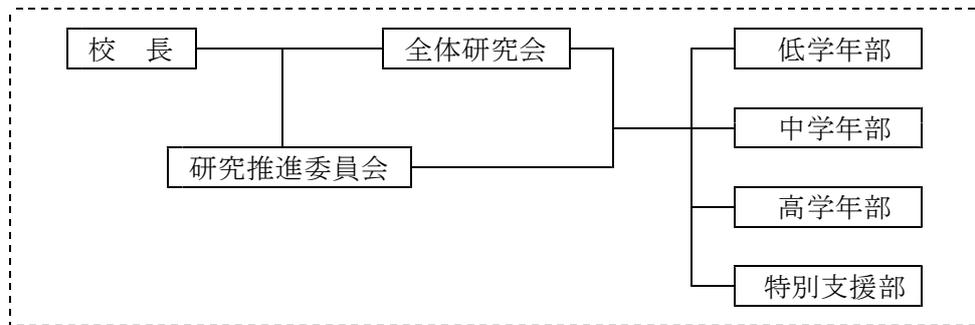
② 教師の支援

授業中の児童の様子やノート、学習プリント（ワークシート）での記述などから、児童一人ひとりの理解の様子やつまづきを把握して、その場で適切なアドバイスや励ましの声かけをしたり、個に応じたヒントカードなどを準備したりする。

(4) 研究・研修計画

月	校 内 研 究	職 員 研 修
4	研究計画立案 研究推進委員会	研修計画立案
5	全体研究会	特別支援理解教育
6	授業研究会 5年	総合的な学習の時間及び郷土学習 英語活動における教師の支援
7	夏季校内研修会（全体研）	環境教育・エコスクール
8	夏季校内研修会 夏季校内研修会（全体研）	英語活動の指導法 情報教育
9	研究推進委員会	人権教育、福祉教育
10	授業研究会 2年 授業研究会 3年	生徒指導上の諸問題
11	授業研究会 特別支援学級 授業研究会 4年	スクールソーシャルワーク的教育相談
12	授業研究会 6年	個人情報の保護
1	授業研究会 1年	児童虐待・DV研修
2	紀要執筆〆切 校内研究会（全体会） （次年度の方向性）	情報教育 スクールソーシャルワーク的教育相談
3	平成27年度研究紀要完成	研修の反省と次年度への方向の検討

(5) 校内研究体制の概要



(6) 過去5か年間の研究主題及び指定研究歴

- | | |
|--------|---|
| 平成22年度 | 自分の思いを生き生きと表現する子どもの育成
～書く活動を核に「考える力」を高める授業のあり方 |
| 平成23年度 | 自ら考え学ぶ子どもの育成
～「書く力」を育てるための系統的な指導の在り方～ |
| 平成24年度 | 自ら考え学ぶ子どもの育成
～「書く力」を育てるための系統的な指導の在り方～ |
| 平成25年度 | 自ら考え学ぶ子どもの育成
～書く意欲、書く力を高める指導の在り方～ |
| 平成26年度 | 自ら考え学ぶ子どもの育成
～自ら考えをもち伝え合う、指導の工夫～ |